

(第1号様式)

## プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup>認証申請書

2024年11月22日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 阪南市

住所：大阪府阪南市尾崎町35-1

氏名：阪南市長 水野謙二 印

法人番号：1000020272329

(共同申請者) 特定非営利活動法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター

住所：大阪府大阪市浪速区幸町3-1-10

氏名：理事長 中原 敏之 印

法人番号：9120005007367

(共同申請者) 尾崎漁業協同組合

住所：大阪府阪南市尾崎町3-27-14

氏名：代表理事組合長 南 佳典 印

法人番号：1120105007316

(共同申請者) 西鳥取漁業協同組合

住所：大阪府阪南市鳥取1115

氏名：代表理事組合長 相良 康隆 印

法人番号：3120105007322

(共同申請者) 下荘漁業協同組合

住所：大阪府阪南市箱作3341

氏名：代表理事組合長 西澤 勝 印

法人番号：7120105007319

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	202211JBCA00009
プロジェクト名称	～魚庭の海・阪南の海の再生～「海のゆりかご再生活動」

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	<p>「海のゆりかご再生活動」は、子供たちが我が町の海の豊かさを、アマモ場保全活動を通じて実感し、将来自慢できるようにしていきたいとの思いで、2006年より、阪南市立西鳥取小学校と連携して、2015年度まで毎年アマモ苗育成・移植によるアマモ場再生活動を実施してきました。2016年度からは、日本財団/東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター/笹川平和財団海洋政策研究所が主催する「海洋教育パイオニアスクールプログラム」にエントリーし、2018年に開催した「全国アマモサミット2018 in 阪南」の開催を契機に、他の小学校にも活動に広がり、現在は阪南市の全8校の全学年で海洋教育を行っています。この成果が評価され、2019年6月29日に開催されたG20大阪サミット配偶者プログラムのシンポジウムで、各小学校の児童代表が登壇しアマモ場再生活動の紹介と海の大切さについての意見交換を行いました。また、2023年には国際アマモ・ブルーカーボンワークショップにおいて、国内外の研究者の方々と一緒に学校で取り組んでいることを子供たちの劇にして紹介しました。</p> <p>毎年の活動の各団体の役割は以下の通りです。      &lt;阪南市(各小学校)&gt;      アマモ苗移植(5月)、アマモの花枝採取と生き物調査(6月)、アマモ種子選別(9月)、アマモ苗床づくりと播種(11月)、アマモ苗育成(11月～翌年4月)      &lt;NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター&gt;      アマモ場面積調査(4月～6月)、アマモ開花状況確認(4月)、大阪湾の環境とアマモ場再生の講義(5月～9月)、各小学校の活動の技術指導(4月～3月)      &lt;各地域の漁業協同組合(尾崎、西鳥取、下荘)&gt;      現地活動のサポート(施設の利用など)、各小学校の漁港見学および漁業の授業の講師      クレジットは、小学校によるアマモ場再生活動を地域全体で協力しながら継続的な活動を推進していくための経費に活用すると共に、購入企業様の参画・参加による活動の活性化にも期待しています。      クレジットを取得することによって、アマモ場再生の継続的な活動が担保され、地域のアマモ場の保全・拡大につながると共に、継続的な海洋教育の推進による海洋環境保全意識が地域全体に広がり、漁業を含めた地域の活性化に結びつくと考えています。また、阪南市が進めている「SDGs未来都市」、「自治体SDGsモデル事業」、「環境省ローカルSDGs(地域循環共生圏)実践地域」などの施策とも深く連携しており、継続的な小学生の活動との相乗効果が期待されています。</p>
クレジット取得理由	<p>アマモ場の保全・再生活動NPOなどの民間団体が補助金や助成金を活動原資として行っているのが一般的である。これらの資金はその性格上期間が限られており、継続的に支出されるものではない。そのため、活動団体はその期限の度に新たな資金調達に迫られている。      我々は保全活動が持続可能な活動となるために、教育と連携し、小学校の学校教育の一環として取り組んでいます。また、漁協や他の地域活動団体と協働し、成果を共有することで、運営における負担の分散化を図っています。      クレジットは、小学校によるアマモ場再生活動を地域全体で協力しながら継続的に推進していくための資金として活用します。      さらに、購入企業様の参画・参加を促し、より多くの活動主体による活性化にも期待しています。</p>
クレジット取得後の計画や見通し	<p>クレジットを取得することによって、アマモ場再生の継続的な活動が担保され、地域のアマモ場の保全・拡大につながると共に、地域の海洋教育が継続的に推進されていくことから、海洋環境保全への意識が子供たちから地域全体に広がり、漁業を含めた地域の活性化に結びつくと考えています。また、阪南市が進めている「SDGs未来都市」、「自治体SDGsモデル事業」、「環境省ローカルSDGs(地域循環共生圏)実践地域」などの施策とも深く連携しており、継続的な小学生の活動との相乗効果が期待されています。さらに、活動を通じて企業様と小学校とが直接連携する新しい形の自然再生の形を作っていきたいと考えています。</p>
申請対象期間に実施した活動の概要	活動は、期間中の毎年以下のようなスケジュールで実施しています。

<p>申請対象期間に実施した活動の概要</p>	<p>4月～5月 アマモ場面積調査  5月～6月 アマモ苗移植  6月 アマモ花枝採取・生き物調査  9月 アマモ種子選別・学習会  11月 アマモ苗床づくり・播種  なお、6月の花枝採取の際には、各アマモ場での生き物調査を行い、その結果は大阪湾再生推進会議が主催する「大阪湾生き物一斉調査」に提供しています。  2023年度の11月18日に東京で開催された「国際アマモ・ブルーカーボンワークショップ」において西鳥取小学校の生徒たちがアマモ場保全活動を劇で発表しました。また、11月25日に阪南市で開催された「NPO法人海に学ぶ体験活動協議会」の全国フォーラムで、舞小学校と下荘小学校の生徒が活動を紹介しました。さらに、公益財団法人笹川平和財団が運営するYouTubeチャンネル「海のSDGs最前線！ブルーエコノミーを学ぶ」の第1話「アマモが生み出す海の経済循環」で、子供たちの活動が紹介されるなど、多くの子供たちの情報発信に繋がりました  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=bYaf_G8DFtw">https://www.youtube.com/watch?v=bYaf_G8DFtw</a></p>
<p>プロジェクト実施開始日</p>	<p>2006年4月～現在</p>

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海草 【藻場】アマモ場 【構成種】アマモ
	②クレジット認証対象期間	2019年04月01日～2020年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 1.64(ha) 【面積の算定根拠】 ドローンおよび目視による調査 【面積の資料】 添付ファイルなし
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 36 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 平均的な箇所3箇所1m×1mを採取し平均を算出した 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 添付ファイルなし  【含水率】 81.83(%) 【含水率の算定根拠】 採取したアマモを乾燥させて乾燥重量を計測し含水率を算定した。 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

<p>項目1</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.7 【P/B比の算定根拠】 文献値 国分秀樹・山田浩且（2015）：伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討 土木学会論文集B2（海岸工学）,Vol.71,No.2,I_1381-I_ 【P/B比に関する資料】 文献 伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討.pdf</p> <p>【炭素含有率】 34.5(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値 杉本憲司・平岡喜代典・太田誠二・新村陽子・寺脇利信・岡田光政（2006）：アオサ類の堆積によるアマモ場への影響,水環境学会誌Vol.29,No.5,pp.269-273 【炭素含有率に関する資料】 文献 アオサ類の堆積によるアマモ場への影響.pdf</p> <p>【残存率1】 0.162 【残存率1の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0181 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 2.12 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------------	--------------	---

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 8.808(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：1.64(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：5.37089×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 昭和46年(1971年)度の大阪府水産試験場事業報告によると、対象区域内の箱作自然海岸でアマモ場が認められていた(面積は不明)が、昭和47年から着工となった「せんなん里海公園」の造成(埋立て、人工海浜整備:平成8年完成)により対象区域が埋め立てられたため、昭和52年(1977年)度の同事業報告では“消滅した”とされている。このことから、ベースラインはゼロとする。 &lt;参考資料&gt; 大阪府水産試験場:昭和46年度大阪府水産試験場事業報告, pp.45-47, 1971 大阪府水産試験場:昭和52年度大阪府水産試験場事業報告, pp.91-93, 1979</p> <p>【資料】 文献 昭和46年度大阪府水産試験場事業報告1971(抜粋).pdf 文献 昭和52年度大阪府水産試験場事業報告1979(抜粋).pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	7.112(t-CO2)

項目2	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海草 【藻場】アマモ場 【構成種】アマモ
	②クレジット認証対象期間	2020年04月01日～2021年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 1.71(ha) 【面積の算定根拠】 ドローンおよび目視による調査 【面積の資料】 添付ファイルなし
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 36 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 平均的な箇所3箇所1m×1mを採取し平均を算出した 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 添付ファイルなし  【含水率】 81.83(%) 【含水率の算定根拠】 採取したアマモを乾燥させて乾燥重量を計測し含水率を算定した。 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

<p>項目2</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.7 【P/B比の算定根拠】 文献値 国分秀樹・山田浩且（2015）：伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討 土木学会論文集B2（海岸工学）,Vol.71,No.2,I_1381-I_ 【P/B比に関する資料】 文献 伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討.pdf</p> <p>【炭素含有率】 34.5(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値 杉本憲司・平岡喜代典・太田誠二・新村陽子・寺脇利信・岡田光政（2006）：アオサ類の堆積によるアマモ場への影響,水環境学会誌Vol.29,No.5,pp.269-273 【炭素含有率に関する資料】 文献 アオサ類の堆積によるアマモ場への影響.pdf</p> <p>【残存率1】 0.162 【残存率1の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0181 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 2.12 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------------	--------------	---

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 9.184(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：1.71(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：5.37089×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 昭和46年(1971年)度の大阪府水産試験場事業報告によると、対象区域内の箱作自然海岸でアマモ場が認められていた(面積は不明)が、昭和47年から着工となった「せんなん里海公園」の造成(埋立て、人工海浜整備:平成8年完成)により対象区域が埋め立てられたため、昭和52年(1977年)度の同事業報告では“消滅した”とされている。このことから、ベースラインはゼロとする。 &lt;参考資料&gt; 大阪府水産試験場:昭和46年度大阪府水産試験場事業報告, pp.45-47, 1971 大阪府水産試験場:昭和52年度大阪府水産試験場事業報告, pp.91-93, 1979</p> <p>【資料】 文献 昭和46年度大阪府水産試験場事業報告1971(抜粋).pdf 文献 昭和52年度大阪府水産試験場事業報告1979(抜粋).pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	7.416(t-CO2)

項目3	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海草 【藻場】アマモ場 【構成種】アマモ
	②クレジット認証対象期間	2021年04月01日～2022年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 2.09(ha) 【面積の算定根拠】 ドローンおよび目視による調査 【面積の資料】 添付ファイルなし
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 36 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 平均的な箇所3箇所1m×1mを採取し平均を算出した 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 添付ファイルなし  【含水率】 81.83(%) 【含水率の算定根拠】 採取したアマモを乾燥させて乾燥重量を計測し含水率を算定した。 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

<p>項目3</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.7 【P/B比の算定根拠】 文献値 国分秀樹・山田浩且（2015）：伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討 土木学会論文集B2（海岸工学）,Vol.71,No.2,I_1381-I_ 【P/B比に関する資料】 文献 伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討.pdf</p> <p>【炭素含有率】 34.5(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値 杉本憲司・平岡喜代典・太田誠二・新村陽子・寺脇利信・岡田光政（2006）：アオサ類の堆積によるアマモ場への影響,水環境学会誌Vol.29,No.5,pp.269-273 【炭素含有率に関する資料】 文献 アオサ類の堆積によるアマモ場への影響.pdf</p> <p>【残存率1】 0.162 【残存率1の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0181 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 2.12 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------------	--------------	---

項目3	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 11.225(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：2.09(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：5.37089×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目3	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 昭和46年(1971年)度の大阪府水産試験場事業報告によると、対象区域内の箱作自然海岸でアマモ場が認められていた(面積は不明)が、昭和47年から着工となった「せんなん里海公園」の造成(埋立て、人工海浜整備:平成8年完成)により対象区域が埋め立てられたため、昭和52年(1977年)度の同事業報告では“消滅した”とされている。このことから、ベースラインはゼロとする。 &lt;参考資料&gt; 大阪府水産試験場:昭和46年度大阪府水産試験場事業報告, pp.45-47, 1971 大阪府水産試験場:昭和52年度大阪府水産試験場事業報告, pp.91-93, 1979</p> <p>【資料】 文献 昭和46年度大阪府水産試験場事業報告1971(抜粋).pdf 文献 昭和52年度大阪府水産試験場事業報告1979(抜粋).pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	9.064(t-CO2)

項目4	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海草 【藻場】アマモ場 【構成種】アマモ
	②クレジット認証対象期間	2022年04月01日～2023年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 2.09(ha) 【面積の算定根拠】 ドローンおよび目視による調査 【面積の資料】 添付ファイルなし
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 36 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 平均的な箇所3箇所1m×1mを採取し平均を算出した 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 添付ファイルなし  【含水率】 81.83(%) 【含水率の算定根拠】 採取したアマモを乾燥させて乾燥重量を計測し含水率を算定した。 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

<p>項目4</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.7 【P/B比の算定根拠】 文献値 国分秀樹・山田浩且（2015）：伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討 土木学会論文集B2（海岸工学）,Vol.71,No.2,I_1381-I_1388 【P/B比に関する資料】 文献 伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討.pdf</p> <p>【炭素含有率】 34.5(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値 杉本憲司・平岡喜代典・太田誠二・新村陽子・寺脇利信・岡田光政（2006）：アオサ類の堆積によるアマモ場への影響,水環境学会誌Vol.29,No.5,pp.269-273 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率1】 0.162 【残存率1の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0181 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 2.12 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------------	--------------	--

項目4	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 11.225(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：2.09(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：5.37089×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目4	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 昭和46年(1971年)度の大阪府水産試験場事業報告によると、対象区域内の箱作自然海岸でアマモ場が認められていた(面積は不明)が、昭和47年から着工となった「せんなん里海公園」の造成(埋立て、人工海浜整備:平成8年完成)により対象区域が埋め立てられたため、昭和52年(1977年)度の同事業報告では“消滅した”とされている。このことから、ベースラインはゼロとする。 &lt;参考資料&gt; 大阪府水産試験場:昭和46年度大阪府水産試験場事業報告, pp.45-47, 1971 大阪府水産試験場:昭和52年度大阪府水産試験場事業報告, pp.91-93, 1979</p> <p>【資料】 文献 昭和46年度大阪府水産試験場事業報告1971(抜粋).pdf 文献 昭和52年度大阪府水産試験場事業報告1979(抜粋).pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	9.064(t-CO2)

項目5	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海草 【藻場】アマモ場 【構成種】アマモ
	②クレジット認証対象期間	2023年04月01日～2024年03月31日
	③対象とする面積	【面積】 1.87(ha) 【面積の算定根拠】 ドローンおよび目視による調査 【面積の資料】 添付ファイルなし
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 36 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 平均的な箇所3箇所1m×1mを採取し平均を算出した 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 添付ファイルなし  【含水率】 81.83(%) 【含水率の算定根拠】 採取したアマモを乾燥させて乾燥重量を計測し含水率を算定した。 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし

<p>項目5</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.7 【P/B比の算定根拠】 文献値 国分秀樹・山田浩且（2015）：伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討 土木学会論文集B2（海岸工学）,Vol.71,No.2,I_1381-I_1388 【P/B比に関する資料】 文献 伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討.pdf</p> <p>【炭素含有率】 34.5(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値 杉本憲司・平岡喜代典・太田誠二・新村陽子・寺脇利信・岡田光政（2006）：アオサ類の堆積によるアマモ場への影響,水環境学会誌Vol.29,No.5,pp.269-273 【炭素含有率に関する資料】 文献 アオサ類の堆積によるアマモ場への影響.pdf</p> <p>【残存率1】 0.162 【残存率1の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0181 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 2.12 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------------	--------------	---

項目5	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 10.043(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：1.87(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：5.37089×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目5	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 昭和46年(1971年)度の大阪府水産試験場事業報告によると、対象区域内の箱作自然海岸でアマモ場が認められていた(面積は不明)が、昭和47年から着工となった「せんなん里海公園」の造成(埋立て、人工海浜整備:平成8年完成)により対象区域が埋め立てられたため、昭和52年(1977年)度の同事業報告では“消滅した”とされている。このことから、ベースラインはゼロとする。 &lt;参考資料&gt; 大阪府水産試験場:昭和46年度大阪府水産試験場事業報告, pp.45-47, 1971 大阪府水産試験場:昭和52年度大阪府水産試験場事業報告, pp.91-93, 1979</p> <p>【資料】 文献 昭和46年度大阪府水産試験場事業報告1971(抜粋).pdf 文献 昭和52年度大阪府水産試験場事業報告1979(抜粋).pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	8.11(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	40.7 t
------------------	--------